

都市再生整備計画 事後評価方法書

宇都宮都市拠点地区

平成25年7月

栃木県宇都宮市

(1) 成果の評価

1) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標 1: 空き店舗数

A: 事前評価時の『従前値』の求め方

①従前値の基準時点	「空き店舗実態調査」実施時（平成 21 年 7 月末）
②実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）
③計測手法	・ 宇都宮まちづくり推進機構で実施した空き店舗実態調査を用い、メインストリート（店舗集積エリア）であるオリオン通りの空き店舗数を把握し、従前値として設定した。

B: 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方

④計測時期	平成 25 年 7 月末
⑤実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）
⑥データの計測手法	・ 平成 25 年 7 月末時点における空き店舗実態調査を用いて、メインストリート（店舗集積エリア）であるオリオン通りの空き店舗数を把握する。
⑦評価値の求め方	・ 計測時点では、中心商業地出店等促進事業や魅力ある商店街等支援事業等が終了していないことから、全ての事業の効果を計測することは困難である。 ・ そこで、平成 25 年 7 月末時点におけるオリオン通りの空き店舗数のデータと過去 4 年間（平成 21～24 年度）の傾向から、評価基準日【平成 26 年 3 月末時点】のオリオン通りの空き店舗数を推計し、評価値（見込みの値）とする。

⑧確定／見込みの別		確定
	●	見込み

C: フォローアップ時の『確定値』の求め方

⑨フォローアップの必要性	●	あり
		なし
⑩計測時期	交付終了後（平成 26 年 4 月）	
⑪実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）	
⑫計測手法	・ 平成 26 年 4 月には、平成 26 年 3 月末（評価基準日）における空き店舗数が確定することから、それにより中心商業地の空き店舗数を把握し、確定値とする。	

指標 2 :		歩行者・自転車通行量	
A : 事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の基準時点	「商店街通行量・来街者実態調査」実施時（平成 21 年 7 月）		
②実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）		
③計測手法	・ 商工会議所で実施した「商店街通行量・来街者実態調査」を用いて，中心商業地 10 地点における歩行者・自転車通行量を把握し，従前値として設定した。		
B : 事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成 25 年 7 月		
⑤実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）		
⑥データの計測手法	・ 平成 23 年 7 月に実施した「商店街通行量・来街者実態調査」を用いて，中心商業地 10 地点における歩行者・自転車通行量を把握する。		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点では，中心商業地出店等促進事業や都心部居住推進事業等が終了していないことから，全ての事業の効果を計測することは困難である。 そこで，平成 23 年 7 月における歩行者・自転車通行量のデータと過去 4 ヶ年（平成 17, 19, 21, 22 年度）の傾向から，評価基準日【平成 26 年 3 月末時点】の歩行者・自転車通行量を推計し，評価値（見込みの値）とする。 		
⑧確定／見込みの別		確定	
	●	見込み	
C : フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あり	
		なし	
⑩計測時期	平成 25 年 12 月		
⑪実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）		
⑫計測手法	・ 平成 25 年 12 月には，平成 25 年度調査の歩行者・自転車通行量が確定することから，それにより，中心商業地 10 地点における歩行者・自転車通行量を把握し，確定値とする。		

指標3：		居住人口（夜間人口）	
A：事前評価時の『従前値』の求め方			
①従前値の基準時点	「住民基本台帳人口」実施時（平成21年9月末）		
②実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）		
③計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年9月末における住民基本台帳人口の町丁目別データを用いて、中心市街地の居住人口（夜間人口）を把握し、従前値として設定した。 		
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方			
④計測時期	平成25年9月末時点		
⑤実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）		
⑥データの計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年9月末における住民基本台帳人口の町丁目別データを用いて、中心市街地の居住人口（夜間人口）を把握する。 		
⑦評価値の求め方	<ul style="list-style-type: none"> 計測時点では、都心部居住推進事業等が終了していないことから、全ての事業の効果を計測することは困難である。 そこで、平成25年9月末における住民基本台帳人口のデータと過去4年間（平成21～24年度）の傾向から、評価基準日【平成26年3月末時点】の住民基本台帳人口を推計し、評価値（見込みの値）とする。 		
⑧確定／見込みの別		確定	
	●	見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方			
⑨フォローアップの必要性	●	あり	
		なし	
⑩計測時期	交付終了後（平成26年4月）		
⑪実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）		
⑫計測手法	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年4月には、平成26年3月末（評価基準日）における住民基本台帳人口が確定することから、それにより中心市街地の居住人口（夜間人口）を把握し、確定値とする。 		

(1) 成果の評価

2) その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

数値指標：	オリオンスクエアで開催されたイベントでの集客数	
記述理由	・ 大型映像装置を活用した賑わい創出事業など，地区整備に伴う効果としてオリオンスクエアで開催されたイベントでの集客数の増加がみられ，目標である「集客」を評価する指標としてふさわしいと考えられる。	
A：事前評価時の『従前値』の求め方		
①従前値の基準時点	平成 21 年度の年間集客数（計画策定前）	
②実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）	
③計測手法	・ オリオンスクエアで開催されたイベントについて，イベント主催者から報告された集客数を用い，年間の集客数を把握する。	
B：事後評価時のデータの計測方法と『評価値』の求め方		
④計測時期	平成 24 年度	
⑤実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）	
⑥データの計測手法	・ 平成 24 年度にオリオンスクエアで開催されたイベントについて，イベント主催者から報告された集客数を用い，年間の集客数を把握する。	
⑦評価値の求め方	・ 計測時点では，全ての事業が終了していないことから，これらの効果を計測することは困難である。 ・ そこで，平成 24 年度の集客数と過去 4 年間（平成 21～24 年度）の傾向から，評価基準日【平成 26 年 3 月末時点】の集客数を推計し，評価値（見込みの値）とする。 参考）オリオンスクエア供用開始：平成 18 年 11 月 大型映像装置供用開始：平成 23 年 10 月	
⑧確定／見込みの別	<input type="checkbox"/> 確定	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見込み	
C：フォローアップ時の『確定値』の求め方		
⑨フォローアップの必要性	<input checked="" type="checkbox"/> あり	
	<input type="checkbox"/> なし	
⑩計測時期	交付終了後（平成 26 年 4 月）	
⑪実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（事業担当課）	
⑫計測手法	・ 平成 26 年 4 月には，平成 25 年度のオリオンスクエアで開催されたイベントでの集客数が確定することから，それにより集客数を把握し，確定値とする。	

(2) 実施過程の評価

1) モニタリングの実施状況の確認

A: 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- ア 都市再生整備計画に実施することを記載した
イ 都市再生整備計画に記載しなかった
ウ 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B: 実施事項 (※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入)

なし

C: 事後評価時の確認方法

①時 期

②確 認 先

③確認方法

2) 住民参加プロセスの実施状況の確認

A: 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- ア 都市再生整備計画に実施することを記載した
イ 都市再生整備計画に記載しなかった
ウ 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B: 実施事項 (※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入)

- ・ 「宇都宮市中心市街地活性化協議会」において、事業等について説明し、地元商店街や地域住民等から意見等を伺った。

C: 事後評価時の確認方法

①対 象

「宇都宮市中心市街地活性化協議会」の実施状況について確認する。

②時 期

交付終了年度 (平成 25 年度末)

③確 認 先

宇都宮市中心市街地活性化協議会

④確認方法

「宇都宮市中心市街地活性化協議会」の事業報告や議事録により、住民参加プロセスの実行状況について確認する。

3) 持続的なまちづくり体制の構築状況の確認

A: 都市再生整備計画への記載状況および実施状況

- ア 都市再生整備計画に実施することを記載した
イ 都市再生整備計画に記載しなかった
ウ 都市再生整備計画に記載はないが実施した

B: 実施事項 (※Aで、アまたはウに該当する場合に記入、イの場合には「なし」と記入)

- ・ 「宇都宮市中心市街地活性化協議会」を年 1 回程度開催し、地元商店街や地域住民等の関係者において、事業等について意見交換を行った。

C: 事後評価時の確認方法

①対 象

「宇都宮市中心市街地活性化協議会」の実施状況について確認する。

②時 期

交付終了年度 (平成 25 年度末)

③確 認 先

宇都宮市中心市街地活性化協議会

④確認方法

「宇都宮市中心市街地活性化協議会」の事業報告や議事録により、持続的なまちづくり体制の構築状況について確認する。

(3) 効果発現要因の整理

①時 期	平成 25 年 9 月～10 月
②実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（同事業担当課）
③検討体制	地域政策室中心市街地活性化推進室が主管課となり，事業に関わる全ての課（地域政策室中心市街地活性化推進室，みんなでまちづくり課，商工振興課，道路建設課，住宅課，市街地整備課，公園管理課，西部区画整理事業課）による会議を開催し，効果発現要因について検討するとともに，随時意見交換を行う。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

①時 期	平成 25 年 9 月～10 月
②実施主体	地域政策室中心市街地活性化推進室（同事業担当課）
③検討体制	前述(3)の関係課会議において，今後のまちづくり方策について検討するとともに，随時意見交換を行う。

(5) 事後評価原案等の公表

	原案の公表	評価結果(最終)の公表
①時 期	平成 25 年 10 月	平成 26 年 3 月
②実施主体	市街地整備課（都市再生整備計画事業主管課），地域政策室中心市街地活性化推進室（同事業担当課）	市街地整備課（都市再生整備計画事業主管課），地域政策室中心市街地活性化推進室（同事業担当課）
③公表方法	広報紙への掲載により公表期間等を周知し，市ホームページ及び事業担当課窓口において公表する予定である。公表期間は 2 週間とする。	市ホームページへの掲載により，フォローアップが終了するまで公表する。フォローアップ実施後は 1 年以上の公表を予定

(6) 評価委員会の審議

①時 期	平成 25 年 11 月
②実施主体	市街地整備課（都市再生整備計画事業主管課）
③設置・運用方法	学識経験のある有識者等で構成する「まちづくり交付金評価委員会」を設置し，都市再生整備計画事業の事後評価や今後のまちづくりの方向性等について審議を行う。

(7) その他の機会における有識者からの意見聴取の予定

①聴取方法	
-------	--

※（3）～（6）の検討以外に市町村で任意に有識者から意見聴取を予定する場合に記入

(8) 事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況

①予算措置 の状況	ア□ 費用は発生しない イ■ 費用は発生するが、予算措置を講じている ウ□ 費用は発生するが、予算措置は講じていない エ□ その他 ()
--------------	--

都道府県名	栃木県
市町村名	宇都宮市
地区名	宇都宮都市拠点地区
計画期間	平成 22 年度～平成 25 年度
作成者	部署 総合政策部地域政策室
	役職 主任技師
	氏名 朝日 彰一
連絡先	TEL 028-632-2109
	FAX 028-632-7072
	E-mail u2010@city.utsunomiya.tochigi.jp

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 事後評価シート
(原案)

宇都宮都市拠点地区

平成25年10月

栃木県宇都宮市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	栃木県		市町村名	宇都宮市		地区名	宇都宮都市拠点地区			面積	327					
交付期間	平成22年度～平成25年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	1710.4	国費率	0.4							
1) 事業の実施状況	事業名															
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】市道2号線、市道3号線(ユニオン通り)【地域生活基盤施設】(地域防災施設)中央生涯学習センター、(情報板)オリオン市民広場【土地区画整理事業】小幡・清住地区【住宅市街地総合整備事業】小幡・清住地区													
		提案事業	【地域創造支援事業】中心商業地出店等促進事業、魅力ある商店街等支援事業、都心部居住推進事業、総合情報板設置事業													
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】市道3号線・1136号線(オリオン通り)			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	【地域創造支援事業】 ・中心商店街景観整備支援事業 ・魅力ある景観づくり事業			ベンチ・駐輪ラック等については、本事業では実施せず、魅力ある商店街等支援事業で実施し、商店街による自主的な取組としたため。 ・中心商店街景観整備支援事業については、県補助金の「わがまち自慢推進事業」を活用したため。 ・魅力ある景観づくり事業については、地元商店街などで構成される協議会を開催し、景観形成重点地区として指定したが、具体的な整備事業までいっていないため。			「商業地が様々な顔を持つ賑わいのあるまち」等に関連する事業であるが、指標及び数値目標に影響はないと思われるため据え置く。 ・「人々が行き交うまち」等に関連する事業であるが、指標及び数値目標に影響がないと思われるため、据え置く。							
新たに追加した事業	基幹事業				中心市街地の活性化や空き店舗対策を図るため、市内にある大学及び大学院に所属する学生などに対し、空き店舗を活用して実施する事業について、出店費用等の一部を補助する事業を新たに追加する。			「人々が行き交うまち」等に関連する事業であるが、指標及び数値目標に影響が少くないと思われるため、据え置く。								
交付期間の変更	当初	平成22年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		「宇都宮ならではの“楽しさ”を味わう中心市街地」等に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ					
	指標1	空き店舗数	店舗	20	基準年度 平成21年度	5	目標年度 平成25年度	モニタリング	評価値	11	達成度	△	あり なし	●	魅力ある商店街等支援事業や中心商業地出店等促進事業等により、空き店舗数が減少した。	平成26年4月
	指標2	歩行者・自転車通行量	人	46,987	平成21年度	49,300	平成25年度			49,898		○	あり なし	●	魅力ある商店街等支援事業や中心商業地出店等促進事業などにより商店街の魅力が向上したことや、大型映像装置を活用した多種多様なイベント等が開催されることなどによりオリオン通り周辺等の歩行者・自転車通行量は増加した。	平成26年1月
	指標3	居住人口(夜間人口)	人	15,822	平成21年度	17,100	平成25年度			16,072		△	あり なし	●	都心居住推進事業、市街地再開発事業等による住宅整備により、居住人口の減少に歯止めがかりつつある。	平成26年4月
	指標4												あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ					
	その他の数値指標1	オリオン市民広場で開催されたイベントでの集客数	人	141,740	基準年度 平成21年度		目標年度	モニタリング	評価値	172,631	達成度		あり なし	●	大型映像装置の設置後、オリオン市民広場が利活用され、イベント数の増加や魅力あるイベントの開催により、集客数が増加した。	平成26年4月
	その他の数値指標2															
	その他の数値指標3															
4) 定性的な効果発現状況	意欲のある経営者が出店して、商店街組織の一員となることにより、地元商店街などの活動が活発化し、商店街が一体となった新たな賑わい創出が図られている。															
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等					
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	・中心市街地活性化協議会 ・みちづくり勉強会(市道3号線・ユニオン通り) ・小幡・清住地区まちづくり協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後も地元住民などの意向を把握し、事業の理解や協力を得るため継続していく。				
持続的なまちづくり体制の構築	・中心市街地活性化協議会 ・大通り景観づくり推進協議会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	今後も組織の活動を支援していく。					

様式2-2 地区の概要


宇都宮都市拠点地区(栃木県宇都宮市) まちづくり交付金の成果概要

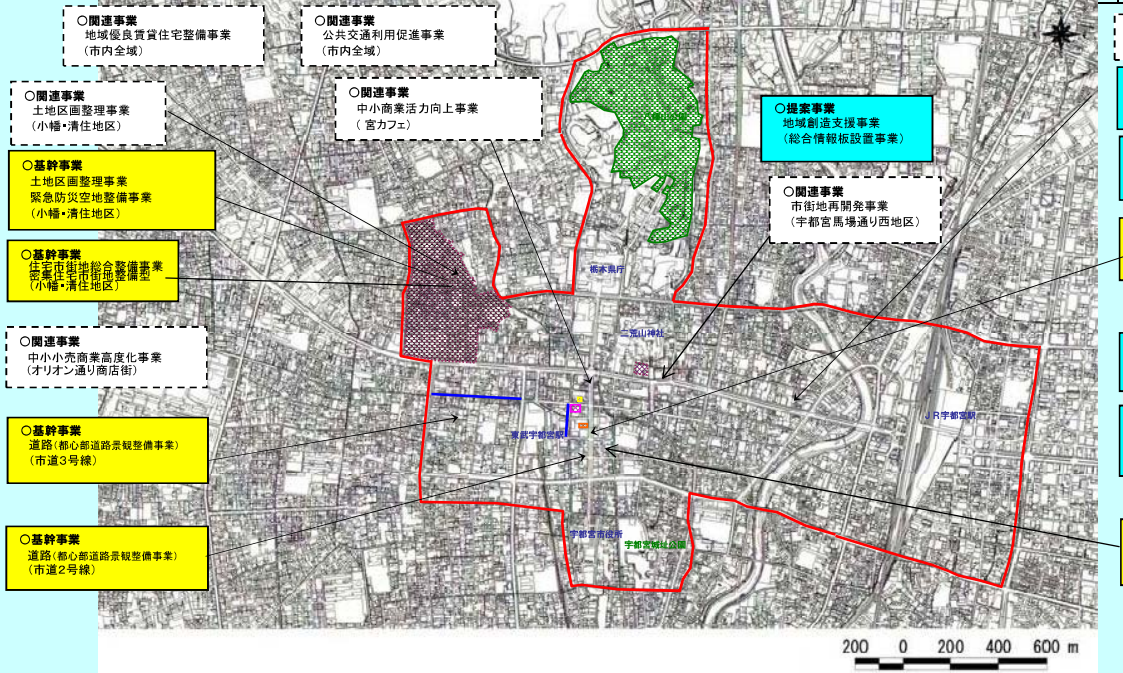
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標 宇都宮ならではの「楽しさ」を味わう中心市街地 ～ 市民が愛する・誇れるまちなかへ ～ 目標1 商業地が様々な顔を持つ賑わいのあるまち ～集客～ 目標2 様々な人々が行き交うまち ～回遊～ 目標3 便利で快適な住みたいまち ～居住～	空き店舗	単位:店舗	20	H21	5	H25	11	H25
	歩行者・自転車通行量	単位:人	46,987	H21	49,300	H25	49,898	H25
	居住人口(夜間人口)	単位:人	15,822	H21	17,100	H25	16,072	H25
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H

提案事業
地域創造支援事業
(空き店舗活用事業)



道路(都心部道路景観整備事業)
(市道2号線)





200 0 200 400 600 m

関連事業
「自転車のまち宇都宮」発信

提案事業
地域創造支援事業
(都心居住推進事業)

提案事業
地域創造支援事業
(中心商業地出店等促進事業)


基幹事業
地域生活基盤施設(情報板)
(オリオン市民広場)

提案事業
地域創造支援事業
(魅力ある商店街等支援事業)


提案事業
地域創造支援事業
(空き店舗活用事業)

基幹事業
地域生活基盤施設(地域防災施設)
(中央生涯学習センター)

地域生活基盤施設(情報板)
(オリオン市民広場)



地域生活基盤施設(地域防災施設)
(中央生涯学習センター)



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 集客力の向上については、中心商業地出店等促進事業や魅力ある商店街等支援事業等により、オリオン通りの空き店舗数が減少するなど、魅力と活力ある中心商店街の形成が図られた。 回遊性の向上については、大型映像装置を活用した多種多様なイベントの開催等により、オリオン通り周辺等の歩行者・自転車通行量が増加するなど、賑わい創出が図られた。 街なか居住の推進については、都心部居住推進事業(若年夫婦世帯家賃補助等)や市街地再開発事業等により、居住人口の減少傾向に歯止めがかかった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> さらなる集客力の向上 各種補助事業の活用等により、魅力ある商店街の形成や、再開発事業等による商業・業務等の高次な都市機能の立地を図る。 面的な賑わいの創出 拠点広場や商店街等における、年間を通じた様々なイベント開催や、魅力ある商店街の形成等を図るとともに、バスなど公共交通の充実や自転車の利活用促進など、来街者にとって安全に楽しく回遊できる動線の確保に取り組む。 街なか居住のさらなる推進 現行補助制度を含め、効果的な居住促進策を検討し、誰もが安心して快適に暮らせる住環境を創出する。 市民意向を取り入れた事業推進 まちづくり勉強会や大通り景観づくり推進協議会を通し、多様な意向・ニーズを把握しながら、円滑・効果的に事業を推進する